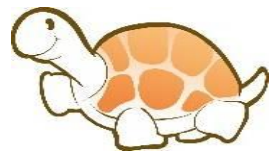




のこのこたより

令和 8年 4月 第132号



社会福祉法人見宝会
特別養護老人ホームあじさい園 宝

住所：奈良市南肘塚町99番1
電話：0742-24-0878 fax：0742-23-0373

令和八年度 事業計画 法人目標「挑戦」

介護・福祉の仕事を始めようとする人の初めの一步、実務経験を積んで資格取得を目指す人（介護福祉士・介護支援専門員）の次への一步、日本で初めて仕事をする技能実習生や特定技能外国人のみなさんのはじめての異国での生活や日本語の勉強、資格取得のための勉強を目指す未知への一步もあります。

また、長く法人でお勤めの職員さんにおいては、忙しい中、研究発表やモデル事業所としての研究などを行い、日々の管理や業務に加え、よりケアの質向上のため、試行錯誤される挑戦もあります。

挑戦する人の姿は、周りの人に勇気や希望を与え、誰かの挑戦を後押しします。自分が挑戦する以外に、同じ職場で頑張る人の「挑戦」から学ぶことができるのは、一人ひとりのキャリア形成において、とても重要です。

「一緒に一緒にいい人生」この言葉を胸に、四季折々の生活に合わせた日常業務において、私達はご利用者のケアの質の向上、ご利用者お一人おひとりの安心安全の維持、おだやかで安寧な日常生活を守っていくことに真摯に向き合っています。

そして、法人職員の協力・協働の下、私達はそれぞれに目標をかけた、皆何かに「挑戦」することで一歩ずつ前進しようとしています。

一人ひとりの「挑戦」が、法人を支える力となります。時代の変化に柔軟に対応し、社会福祉法人の役割を最大限に果たしていきたいと思っております。

極楽坊あすかこども園の園児さん達が来園して下さい、劇や歌声を披露してくれました。園児さんとのふれあいやじゃんけんでは、童心にかって楽しんでおられました。毎回園児さんとの交流会は、宝全員が元気をいただいております。来年度も楽しみにお待ちしております。

第17回GHの運営推進会議を開催！ヤクルト健康教室「免疫力について」研修しました。指のマッサージや体操をしたり、楽しく参加していただきました。

GHのご利用者様は、あじさいサロンで、地域の皆様と一緒に「ゆき」や「ひなまつり」の曲に合わせて手話や季節の歌を楽しみました。



特養のご利用者様は、おやつのパベーカー作りをしました。チョコソースや生クリーム、いちごをトッピングして召し上がられました。「甘くておいしいわ」皆様から喜びいただきました。

本末先生(けんどう倶楽部)健康体操開催！たくさんのご利用者様が参加してください、先生より元気をいただきました。

GHのご利用者様と、昼食用の焼きそばを作りました。ホットプレートの上のアツアツのそばを「美味しいわ」「美味しいわ」とお話ししながら召し上がられました。



お雑祭りの散らし寿司を召し上がっていただきました。



- 4月行事予定
- 3日：あじさい園 30周年祝
 - 13日：あじさいサロン(GH) 14:00
 - 17日：宝開園 11周年記念お祝
 - 寿司バイキング(昼食)お誕生日会
 - 28日：防災訓練 特養(午前) GH(午後)

いつもご協力、ご支援ありがとうございます。事前予約での面会を行っております。お忙しい中面会にお越しいただきありがとうございます。

第107回 歯みがきの歴史⑫

☆野口英世は歯科私塾出身だった

優秀な人材を集めた明治時代の歯科私塾

野口英世は、子ども用の偉人伝でよく知られた人物です。幼い頃、左手に大やけどを負った英世は、母から「学問で身を立てよ」と教え諭されて育ちました。そこで、懸命に勉強して医者を目指し、20歳で上京します。医学開業試験の前期試験に合格したのはよいのですが、資金を使い果たしてしまい、途方に暮れているところを、高山歯科医学院（現在の東京歯科大学の前身）の血脇守之助に助けられました。血脇守之助は、我孫子宿旅館「かど屋」の長男として誕生しました。4歳で母親がなくなり、その後は祖父母により育てられます。血脇家の養子となり、血脇姓を名乗ります。我孫子尋常小学校では、杉山校長先生の指導の下勉学に励みました。後に、その指導に感謝をして杉山先生に伽羅の木を送りました。また、先生のなくなられた後もご家族と交友は続きました。その木は、現在、我孫子市役所にあります。1



3歳になったころ、英語の大切さを感じ、英語を熱心に学びました。学校卒業後、以前から希望していた新聞記者を目指し、「時事新報社」に入社しますが、仕事中に大怪我をし、退社を余儀なくされます。しばらく、我孫子で過ごした後、新潟県三条市で、英語教師となります。英語教師時代に、「ドクトル田原利」と知り合い、「歯科医」という職業があることを知り興味を持ちました。このことがきっかけとなり、歯医者を目指し、努力を始めます。23歳の時、高山歯科医学院に入学し、その2年後、医学院の講師兼幹事となります。

当時、歯科医の数はまだ少なく、歯科医師を目指すには外国語の素養が必要でしたから、歯科医師たちは私塾や勉強会を立ち上げ、全国各地で試験合格を目指した熱心な指導が行われていました。ですから、歯科私塾には優秀な人材が数多く集まっていました。

高山歯科医学院で講師をしていた血脇は、かつて福島へ出張診療に出かけた際に英世と出会い、その才能に感銘を受けていました。そこで、英世に歯科医学院のスタッフとして収入の道を与え、また、左手の再手術を取り計らうなど多大な支援を行ったのです。

歯科私塾から世界的研究者に

英世は、しばらくの間、高山歯科医学院の講師として働きながら、順天堂医院や伝染病研究所にも籍を置くようになります。やがて血脇の援助で渡米、細菌学の研究で頭角を現し、後には黄熱病や梅毒の研究で世界に名を知られるようになります。

英世の渡米後も2人の交流は続き、1922（大正11）年に血脇が歯科医師会会長として訪米した際は、すでにロックフェラー研究所で名声を得ていた英世が、滞在期間中、付きっきりでガイドを務め、ハーディング大統領への表敬訪問まで実現させました。

福島の小さな農家に生まれ、経済的に恵まれなかった英世は、血脇守之助や高山歯科医学院との出会いがなければ、世界に名を残すことができなかつたかもしれません。